

医学科 6 年生に対する放射線科(画像診断科)の 6 週間の選択実習プログラム

(★6 週間の実習全体に関与するものと、※私が半日だけ自由にやらせていただく時間ができたため、実習期間中に 1 回完結型のワークショップとして行うものに分けて記載した。★の方が 6 週間全体に関わるため、影響力は大きいですが、何らかの変更を加える場合、多数の上司の許可が必要で自由度は低い。)

2020 年 2 月 20 日記載→2020 年 2 月 26 日改訂

山口大学医学部放射線科 有吉彰子

※シラバスは全 22 科の共通部分になっており書き換えられないので、このまま掲載する。

山口大学医学部電子シラバスから引用

ユニット

臨床実習 2

目標

1.主題

- 1.医師として必要な態度や、基本的な疾患の診療に関する実践的な知識と技能を身につける。
- 2.基本的な疾患の診療において他職種と協調・協力して自ら情報を収集し、診断・治療計画を立案、討論する。

2.到達目標

- 1.他職種との診療チーム構築ができる。
- 2.生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。

3.患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。

4.臨床実習Ⅰの到達目標に加え、スチューデントドクターとして許容される範囲内での医療行為を実践できる。

3.担当教員の実務経験

5年次Ⅰ月から6年次7月に実施する臨床実習2では、各診療科6週を希望する4診療科の計24週間の実習を行い、各科で指導医が所属するチームの一員として幅広い疾患を担当し、様々な診療、検査、治療に参加している。また、附属病院の診療科に加え、地域の基幹病院（計15病院）で実習を行うことができる。

本院における指導体制は、原則臨床実習Ⅰと同じであり、全期間あるいは期間を分けて主となる指導医の下で診療チームの一員として、クリニカルクラークシップ形式の実習を行っている。指導医は、厚生労働省認定指導医養成プログラムを終了している。また、指導医の多くが各学会の専門医等を取得している。（数字は臨床実習Ⅰと同数）。また、学外実習で指導にあたる指導医についても、その多くが大学病院や臨床研修病院での指導経験を有しており、特に豊富な臨床経験を有する優れた医療人に対し、臨床教授（40人）、臨床准教授（31人）、臨床講師（5人）の称号を付与し、臨床教育の指導体制及び教育内容の充実を図っている（計76人（H30.10.1現在））

以上のとおり、臨床経験豊富な指導医のもと、臨床実習2を実施している。

4.ねらい（H28 コアカリ等対応）

A-8-1-*-*	医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と基礎的素養を有する。
A-9-1-*-*	キャリアを意識し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。
D-1-*-*-*	血液・造血器・リンパ系の構造と機能を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
E-7-*-*-*	胎児・新生児・乳幼児・小児期から思春期にかけての生理的成長・発達とその異常の特徴及び精神・社会的な問題を理解する。
E-8-1-*-*	加齢に伴う身体的変化、精神・心理的变化、高齢者に特有な疾患・病態の診断と治療、リハビリテーション、介護、人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）に関わる問題を学ぶ。
F-2-3-*-*	検査の方法と臨床推論における適応、意義、検査結果の解釈を説明できる。
F-2-8-*-*	診療に必要な薬物治療の基本（薬理作用、有害事象、投与時の注意事項）を学ぶ。

5. 学修目標 (H28 コアカリ等対応)

A-8-1-*2	②生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。
A-8-1-*3	③患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。
A-9-1-*5	⑤臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にする。
D-1-2-*2	②骨髓検査（骨髓穿刺、骨髓生検）を説明できる。
E-7-4-*3	③移行期医療の現状と課題を説明できる。
E-8-1-*9	④加齢に伴う薬物動態の変化、高齢者に対する薬物療法の注意点を説明でき、ポリファーマシーの是正等適切な介入が実施できる。
F-2-3-*1	①臨床検査の目的と意義を説明でき、必要最小限の検査項目を選択できる。
F-2-3-*2	②臨床検査の正しい検体採取方法と検体保存方法を説明できる。
F-2-3-*5	⑤臨床検査の生理的変動、測定誤差、精度管理、ヒューマンエラーを説明できる。
F-2-3-*6	⑥小児、高齢者、妊産婦の検査値特性を説明し、結果を解釈できる。
F-2-3-*7	⑦病態を推察する基本的検査と確定診断のための検査の意義・相違点を理解・説明できる。
F-2-8-*9	⑨年齢や臓器障害に応じた薬物動態の特徴を考慮して薬剤投与の注意点を説明できる。
F-3-6-2-1	①尿検査（尿沈渣を含む）を実施できる。
F-3-6-2-2	②末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。
F-3-6-2-3	③微生物学検査（Gram 染色を含む）を実施できる。

2. テキスト

必要度	書名	著者・監修者・訳者	出版社	出版年	本体価格
-----	----	-----------	-----	-----	------

なし

- 1 必携（授業に必ず持参するもの）
- 2 推奨（学習する際に読むことを強く勧めるもの）
- 3 参考（参考書として適切なもの）

3. 教育方法等の特記事項

「臨床実習2」では、6週間をひとつの単位として、4つの診療科を選択してより実践的な実習を行う。この期間には、山口大学医学部附属病院に加えて、学外教育関連病院で実習を受けることが可能。診療チームの一員として、自ら医療面接や身体診察、基本的検査によって情報を収集し、それを総合して問題点を抽出し、解決に向けて診断や治療の計画を立案・実行することを通して、課題探究・解決学修を行う。併せて、患者や家族を前にして、指導に関わる医師や看護スタッフ等の多職種医療職との連携の中で、医師としての態度やチーム医療を学ぶ。

評価方法

「臨床実習1」と同様にログブックによる評価と各科毎の総括的評価を行う。miniCEX を施行している診療科については、形成的評価を行い、そのルーブリック評価表をログブックへ綴じることとする。また定期的に医学教育センターへログブックを提出し、指導医・学生が双方向性に活用できているか確認する。

注意点（再試等）

出席や知識、技能、態度が規定に満たない場合は、各科の判断で再実習を課す。

改訂前の当科の実習スケジュール

第1週目				
月	火	水	木	金
午前担当(小野田・伊原)	午前担当(飯田・成清)	午前担当(國弘・小野田)	午前担当(松隈・横田)	午前担当(古川・亀田)
9:00-10:00 オリエンテーション 読影端末、teaching fileの見方	9:00-10:00 救急領域の講義	9:00-10:00 胸部単純写真の講義	9:00-10:00 婦人科の講義	9:00-10:00 被ばく、造影剤副作用講義
				10:00-12:00 1週間分の復習・テスト
10:00-11:00 解剖テスト	10:00-11:00 グループで読影の実習 (救急疾患①を当てる)	10:00-11:00 胸部単純写真のテスト(初歩)	10:00-11:00 グループで読影の実習 (婦人科疾患を当てる)	
11:00-12:00 解剖テストの復習	11:00-12:00 実習の回答・解説	11:00-12:00 テストの復習	11:00-12:00 実習の回答・解説	
		12:00-12:30 ドトールランチ(小野田)		
12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ
午後担当(有吉・神谷)	午後担当(小野田・秀浦)	午後担当(伊東・小野田)	午後担当(中尾・大崎)	午後担当(小野田・小松)
13:30-16:00 pre-testの実施(有吉・神谷)	13:30-15:00 グループで読影の実習 (救急疾患②を当てる)	13:30-15:00 グループで読影の実習 (救急疾患③を当てる)	13:30-15:00 グループで読影の実習 (救急疾患④を当てる)	13:30-17:00 teaching fileの作成 (救急疾患・初級編)
				画像・teaching fileを使ってプレ (2人ずつくらい)
	15:00-17:00 実習の回答・解説	15:00-17:00 実習の回答・解説	15:00-16:00 実習の回答・解説	
第2週目				
月	火	水	木	金
午前担当(岡田・野村)	午前担当(田辺・成清)	午前担当(古川・秀浦)	午前担当(小野田・野村)	午前担当(松隈・東)
9:00-10:00 心・血管領域の講義	9:00-10:00 泌尿器領域の講義	9:00-10:00 頭部領域の講義	9:00-10:00 消化管領域の講義	9:00-12:00 1週間分の復習・テスト
10:00-11:00 グループで読影の実習	10:00-11:00 グループで読影の実習	10:00-11:00 グループで読影の実習	10:00-11:00 グループで読影の実習	
11:00-12:00 テストの復習	11:00-12:00 テストの復習	11:00-12:00 テストの復習	11:00-12:00 テストの復習	
		12:00-12:30 ドトールランチ(古川)		
12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ
午後担当(飯田・有吉)	午後担当(國弘・亀田)	午後担当(小野田・伊原)	午後担当(三好・成清)	午後担当(小野田・小松)
13:30-15:00 グループで読影の実習	13:30-15:00 グループで読影の実習	13:30-15:00 グループで読影の実習	13:30-15:00 グループで読影の実習	13:30-17:00 teaching fileの作成
15:00-17:00 実習の回答・解説	15:00-17:00 実習の回答・解説	15:00-17:00 実習の回答・解説	15:00-16:00 実習の回答・解説	画像・teaching fileを使ってプレ (2人ずつくらい)

第3週目	月	火	水	木	金
	午前担当(飯田・有吉)	午前担当(松隈・横田)	午前担当(小野田・三好)	午前担当(大崎・小松)	午前担当(岡田・神谷)
9:00-10:00 小児領域の講義	9:00-10:00 乳腺領域の講義	9:00-10:00 肝胆脾領域の講義	9:00-10:00 骨軟部領域の講義	9:00-11:00 1週間分の復習・テスト	
10:00-11:00 グループで読影レポートの作成	10:00-11:00 グループで読影レポートの作成	10:00-11:00 グループで読影レポートの作	10:00-11:00 グループで読影レポートの作成		
11:00-12:00 国試対策(田辺)	11:00-12:00 指導	11:00-12:00 国試対策(田辺)	11:00-12:00 指導	11:00-12:00 指導	
		12:00-12:30 ドトールランチ(田辺)			
12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	
午後担当(岡田・神谷)	午後担当(小野田・秀浦)	午後担当(伊東・小野田)	午後担当(中尾・三好)	午後担当(小野田・小松)	
13:30-15:00 読影レポートの作成	13:30-15:00 読影レポートの作成	13:30-15:00 読影レポートの作成	13:30-15:00 読影レポートの作成	13:30-17:00 teaching fileの作成	
15:00-17:00 指導	15:00-17:00 指導	15:00-17:00 指導	15:00-16:00 指導	画像・teaching fileを使ってプレ (2人ずつくらい)	
第4週目	月	火	水	木	金
	午前担当(田辺・中尾)	午前担当(國弘・亀田)	午前担当(古川・東)	午前担当(大崎・横田)	午前担当(松隈・東)
9:00-11:00 読影レポートの作成	9:00-11:00 読影レポートの作成	9:00-11:00 読影レポートの作成	9:00-11:00 読影レポートの作成	9:00-11:00 1週間分の復習・テスト	
11:00-12:00 国試対策(田辺)	11:00-12:00 指導	11:00-12:00 国試対策(田辺)	11:00-12:00 指導	11:00-12:00 指導	
		12:00-12:30 ドトールランチ(伊東)			
12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	
午後担当(松隈・野村)	午後担当(有吉・秀浦)	午後担当(小野田・伊原)	午後担当(三好・成清)	午後担当(小野田・小松)	
13:30-15:00 読影レポートの作成	13:30-15:00 読影レポートの作成	13:30-15:00 読影レポートの作成	13:30-15:00 読影レポートの作成	13:30-17:00 teaching fileの作成	
15:00-17:00 指導	15:00-17:00 指導	15:00-17:00 指導	15:00-16:00 指導	画像・teaching fileを使ってプレ (2人ずつくらい)	

第5週目	月	火	水	木	金
午前担当(飯田・有吉)	午前担当(松隈・横田)	午前担当(小野田・三好)	午前担当(大嶋・小松)	午前担当(岡田・神谷)	
9:00-11:00 Aグループ(読影室で読影) Bグループ(teaching fileで読影)	9:00-11:00 Bグループ(読影室で読影) Aグループ(teaching fileで読影)	9:00-11:00 Aグループ(読影室で読影) Bグループ(teaching fileで読影)	9:00-11:00 Bグループ(読影室で読影) Aグループ(teaching fileで読影)	9:00-11:00 1週間分の復習・テスト	
11:00-12:00 国試対策(田辺)	11:00-12:00 わからなかったところを聞く	11:00-12:00 国試対策(田辺)	11:00-12:00 わからなかったところを聞く	11:00-12:00 わからなかったところを聞く	
12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	
午後担当(岡田・神谷)	午後担当(小野田・秀浦)	午後担当(伊東・小野田)	午後担当(中尾・三好)	午後担当(小野田・小松)	
13:30-15:00 Bグループ(読影室で読影) Aグループ(teaching fileで読影)	13:30-15:00 Aグループ(読影室で読影) Bグループ(teaching fileで読影)	13:30-15:00 Bグループ(読影室で読影) Aグループ(teaching fileで読影)	13:30-15:00 Aグループ(読影室で読影) Bグループ(teaching fileで読影)	13:30-17:00 teaching fileの作成	
15:00-16:00 わからなかったところを聞く	15:00-16:00 わからなかったところを聞く	15:00-16:00 わからなかったところを聞く	15:00-16:00 わからなかったところを聞く		
16:00-17:00 teaching fileで読影	16:00-17:00 teaching fileで読影	16:00-17:00 teaching fileで読影		画像・teaching fileを使ってプレ (2人ずつくらい)	
第6週目	月	火	水	木	金
午前担当(田辺・有吉)	午前担当(國弘・亀田)	午前担当(古川・東)	午前担当(大嶋・横田)	午前担当(松隈・有吉)	
9:00-11:00 Aグループ(読影室で読影) Bグループ(teaching fileで読影)	9:00-11:00 Bグループ(読影室で読影) Aグループ(teaching fileで読影)	9:00-11:00 Aグループ(読影室で読影) Bグループ(teaching fileで読影)	9:00-11:00 Bグループ(読影室で読影) Aグループ(teaching fileで読影)	9:00-11:00 post-test(6週間の復習)	
11:00-12:00 国試対策(田辺)	11:00-12:00 わからなかったところを聞く	11:00-12:00 国試対策(田辺)	11:00-12:00 わからなかったところを聞く	11:00-12:00 わからなかったところを聞く	
12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	12:30 デイリーカンファ	
午後担当(松隈・野村)	午後担当(有吉・秀浦)	午後担当(小野田・伊原)	午後担当(三好・成瀬)	午後担当(伊東・小野田)	
13:30-15:00 Bグループ(読影室で読影) Aグループ(teaching fileで読影)	13:30-15:00 Aグループ(読影室で読影) Bグループ(teaching fileで読影)	13:30-15:00 Bグループ(読影室で読影) Aグループ(teaching fileで読影)	13:30-15:00 Aグループ(読影室で読影) Bグループ(teaching fileで読影)	13:30-17:00 総括・修了式	
15:00-16:00 わからなかったところを聞く	15:00-16:00 わからなかったところを聞く	15:00-16:00 わからなかったところを聞く	15:00-16:00 わからなかったところを聞く		
16:00-17:00 teaching fileで読影	16:00-17:00 teaching fileで読影	16:00-17:00 teaching fileで読影			

改訂後の学習目標

- ・レントゲン・CT・MRI の検査を選択し、電子カルテで適切なコメントを記載しオーダーできる。
- ・研修医が当直中に診断できる必要がある急性期疾患の CT/MRI 画像を見て、上級医に適切にコンサルトできる。
- ・医師国家試験に頻出のレントゲン・CT・MRI の画像所見に関して周辺の知識もあわせて説明できる。
- ・必要に応じて放射線科医や放射線技師にコンサルトするなど、周囲の医療スタッフと連携し診療を進めることができる。
- ・医師として自己主導学習者になる必要性を知り、成長する方略についてプランニングし実行できる。→医師として必須のスキルである「学び方」をブラッシュアップする重要性を認識し、自分の学び方を振り返った上で改善する計画を立案し、実行できる。

改訂後の評価方法

- ・Google classroom で配信されるオンラインクイズを満点を取るまで挑戦すること。

- ・Google classroom で配信される話題に対し、週に 1 回はコメントをすること。
 - ・第 2-5 週にメール配信される CT 画像問題に毎日回答し、解説を読んで復習すること。
 - ・学び方を振り返るワークショップの事前課題、事後課題を提出すること。→「**学び方を学ぶ**」ワークショップを 6 週間のうち 3 回行う。事前課題に取り組ませる。自分の学び方を改善する計画を立て(第 1 回)、それが実行できたかどうか理由とともに振り返り(第 2 回・第 3 回)、また今後の計画を立案する(第 2・3 回)。それを 2 人組で取り組ませても良いかもしれない。
 - ・Pre-test に対して Post-test で成績が伸びること。
- (単位を与えないと則留年となるため、修了式への出席を認めるという点で差別化を図る。)

改訂後の当科のスケジュール案 →別ファイル添付

モジュール 1 で学習したことがどのように反映されているのか

- ・Pre-test・Post-test で学習者の伸びしろを評価する
- ・Google classroom での話題提供(画像診断、研修医生活に関わるもの、学び方など)を続ける
- ・学ぶ力を意識するよう働きかけ、自分の学び方を振り返り、改善する方略をアウトプットさせる
- ・応用から入る、を意識するため、早い段階(第 2 週)から、実際のレポートを作成させる

モジュール 2-4 で学習した各アイデアの導入の有無・反映方法

2-1 努力と真剣さを要求する 有

★画像解剖学の試験では各セクションで必ず満点を取るまで繰り返し挑戦させることを継続する。各セクションの復習問題も充実させていく。負担が過剰にならないよう、月曜午前を自学自習時間として確保し、その時間は学習する場所と教科書のみ提供し、出席は必須とせず、質問があれば教員が対応するようにする。

2-2 しゃべるのは 1 割まで 有

★教員が話すのは教科書に書いていない経験や見解、学生へのフィードバックに限定するよう自分も努め、同僚にも働きかけていく

2-3 大事なことは 3 回はやる 有

★各週木曜もしくは金曜に、その週の目標が達成できたか、オンラインテストで満点を取っているかなど達成状況を確認し、質疑応答で振り返る。画像解剖学の自己学習ツールは期間をあけて 3 回満点を取るようにさせる。

2-4 一人でできることは授業ではやらない 有

★事前学習はオンラインで素材を提供する。事前学習をしてくる生活スタイルに不慣れな学生も多数想定される為、月曜午前は学習素材・教科書・場所・時間を提供し(出席は必須ではなく、自宅などで行っても可とする)、事前学習に慣れさせる。教員は質問があれば回答するようにする。

2-5 個人→グループ→個人 有

※担当を分担し、自分で調べさせ、お互いに教え合うよう仕向けている。最後は各自で画像所見を

確認し、オンラインテストの満点を確認することで知識を定着させている。

★私が担当するセクション以外でも導入していけるよう、私のセクションの課題のサンプルを提供し、チェックリストもしくはオンラインテストを整備していくよう勧めてみる。それを月曜午前に提供する。

→来週実習で取り扱う疾患とその重要なポイント一覧(&最終テスト)を金曜午後にオンラインで全て提供し、分担して調べてお互い教え合う形にさせるか、全て個人で調べて取り組むかも含めて学生に考えさせる。教員側は LMS で満点を取ればプロセスは問わないこととする。

2-6 パラレルセッション 有

★月曜午前の課題の一部はパラレルセッションとし、分担して調べさせ、お互いに教えさせる。

※学び方のワークショップでは、学習設計マニュアルの問題の部分を回答させ、その内容をペアでディスカッションさせる。

→学び方を学ぶ、を学習目標の重要な位置づけとして最初から提示する。

2-7 ルーブリックの前にチェックリスト 有

★研修医になって必要とされる最低レベルの疾患に絞り込み、リスト化する。そのリストの疾患の様々なヴァリエーションに触れられるよう疾患の蓄積を行っていく。

★部署内で Google フォームを用いた確認テストの事例を見せ、各セクション(頭部画像診断、救急腹部画像診断、、、など、私とは別の担当者がいる)で作成してもらえないか働きかけていく。また、学生さんと 1 日かけてオリジナルの問題を作る機会を設け、ストックを増やす。

3-1 再チャレンジ可 有

★画像解剖学の自己学習ツールは何度でもチャレンジ可で、満点を取ることを課している。

★同僚が行うセクションでも、私のセクションで使った Google フォームを見せて、復習問題を用意するよう働きかけている。実際に興味を持って作成中の同僚もいる。

3-2 多段階評価 有

★画像解剖学の自己学習ツールは第 1 週の金曜日までに 4 セクション全て満点でクリアするよう伝えてあり、実際にチェックしている。

★pre-test、post-test でカバーしきれないジャンルの問題は 2-5 週にメールで配信される。

3-3 持ち込み可 有

★普段の実習で患者画像をスクロールしながら診断を付けていき、学んで行く際、いつでも参考書が閲覧できるように脇に本棚を設置している。

3-4 問題開示 有

★その週の月曜に、「今週かならずクリアすべき問題」と目標疾患のチェックリストが渡される。それらを毎週金曜までにクリアしていくことで、最終的にシラバスの目標疾患全てが学べるようにする。

3-5 ポートフォリオ 有 →無し

★毎日学んだことを一言で要約し記載するプリントを配布し、記載してもらう。内容は週末にチェックし、フィードバックする。

→これは公開を目的としていないので、レポートに当たると判断しました。

※学び方を学ぶワークショップの事後課題として、自分の学びを伸ばすプランを作成させ、実行さ

せる。→これは公開を目的としていないので、レポートに当たると判断しました。

医学生は就活で困ることが殆どなく、また病院側も「部活のキャプテン系など、ノリの良い医学生」「地元っ子など、確実にウチに就職してくれる医学生」みたいなざっくりとした基準で学生を選ぶことが多く、学んだ過程を公開するシステム自体があまり求められていないと感じています。

3-6 相互レビュー 有

※学び方を学ぶワークショップで学習設計マニュアルの問題を解かせ、ペアでディスカッションさせる。

3-7 LMS でテスト 有

★※Google classroom と Google フォームを使って画像解剖学、診断の自己学習ツールを提供することを継続する。

4-1 学問領域を鳥瞰する 有

★画像診断を取り巻く人々(放射線技師さんなど)やシステムの部分の鳥瞰図を作って一枚絵(+動画)教材にし、classroom で提供する。

4-2 歴史をさかのぼる 有

★CT の開発の歴史と絡めて現代の CT 特有の artifact についての話、や、造影剤沈着発見の歴史などを Classroom の話題として取り入れ、現状の理解を深めるきっかけとしてもらう。

4-3 現実場面での活用を試みる 有

★第 2 週から実際に患者さんの読影レポートを作成してもらう。全てのレポートは診断専門医が添削・確定し、診療現場に速やかに提供・活用される。全てのレポートは概ね 24 時間以内に確定されるため、翌日に振り返る時間を設ける。

★研修医になって速やかにできないといけない「電話で上級医にコンサルト」を実際に練習できる機会を設ける。その際は注意事項やテンプレートを用意しておき、誰でもそのテンプレートに従って患者さんの状態を簡潔にプレゼンできるように練習させる(3 人 1 組でチェックリストを用いて相互評価)。模範例は録画しておき、事前に Classroom で配信。

4-4 複数の視点から分析する 有

★選択実習で放射線科(読影レポートを作成する側)に回ったことで、「適切なオーダーコメントの書き方」の重要性を認識してもらい、他診療科(読影レポートを依頼、活用する側)の実習・診療で役立ててもらう。オーダーコメントの書き方の最低条件や模範例に関しても、Classroom で話題を提供する。

4-5 自分でコミットする段階に誘う 有

★実際に患者さんの読影レポートを作成してもらう。全てのレポートは診断専門医が添削・確定し、診療現場に速やかに提供・活用される。全てのレポートは翌日に指導医と振り返りを行い、その際に、画像診断により患者さんの治療方針などに重大な変化が起きたケース(急性期脳梗塞が発見された場合など)では、電子カルテを併せて確認することで、より臨床現場に近い感覚で患者さんを診療している状況にする。

4-6 オリジナリティのある成果を生み出す 有

★実際に患者さんの読影レポートを作成してもらう際、病変に対する所見の書き方やレポート内の疾患の並べ方、主治医にアラートする方法など、それぞれの指導医のやり方を聞きながらも、正確でわかりやすいレポート表現を模索して貰っている。他の医療スタッフから誤解を招きかねない表現をしている場合は、指導医がフィードバックするなど、医師となって電子カルテに記載する上で重要なスキルを身に付けて貰う。

4-7 学び方を学ぶ目標を追加する 有

★学習設計マニュアルを用いて、学び方を学ぶワークショップを開催し、学び方をブラッシュアップする計画を立てさせ、ペアでディスカッション、フィードバックする。6 週間の最終日までにそのプランを達成できているか状況を報告させる。